

### 3 歳児 4 月 環境図

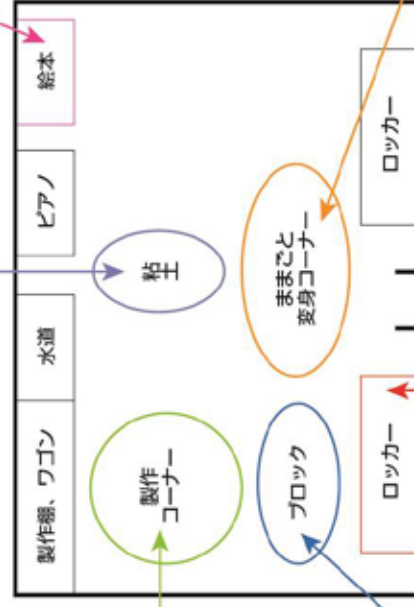
◇予想される幼児の活動 ○保育者の援助 ◎保育者の願い ☆環境の構成

<製作遊び>  
 ◇好きな絵を描いたり、画用紙やのりを使って食べ物や動物を作ったりすることを楽しむ  
 ◎自分のイメージしたものを描いたり作ったりして遊ぶ  
 ○一人一人が自分の好きなように自由に描いたり作ったりすることを楽しむ  
 ◎簡単に手掛けることができることや見立てをモデルとなったり、素材の使い方を知らせたりしていく  
 ○幼児の声を捉えながら提案したり、一緒に選んだりしていく  
 ☆幼児が興味をもてるよう、様々な形や色、大きさの画用紙を用意したり、セロハンテープの扱いを補助したりしていく  
 ☆幼児の視線に物を置いたりするように置いておく。乱雑になるときもあるので、時々物を整理してやるようにしていることが実現できたり、たまたまできたものを見立てたりしていく

<製作コーナー教材>  
 ☆安心して遊び出すことができるよう、簡単に扱うことができ、園児が少し手を加えると「できた」と思えるような材料やすぐに遊び出せる教材などを提示しておく  
 ワゴン：紙、パーツ画用紙（丸や三角、四角など）、土台画用紙（おにぎり、ピザなどに見立てやすい大きさの紙）、塗り絵、くるくる棒、お面ベルト、京花紙、セロハンテープ  
 製作種（個人用）：のり、パス、粘土

<ブロック>  
 ◇自分の好きなものを作ったり友達と見せ合ったりすることを楽しむ  
 ◎昨年度遊んでいた玩具（玩具）や家庭にある玩具で安心して遊んでほしい  
 ○作っている様子を見守り声を掛けすぎないようにする  
 ☆作ったもので遊べるように、ある程度広い場所を確保していく

<粘土遊び>  
 ◇粘土の感触を楽しむんだり、様々な形を作ることや型抜きをすることを楽しんで遊ぶ  
 ◎手先を動かして遊ぶことを楽しんだり、作ることができた達成感を味わったりしてほしい  
 ○粘土遊びに必要な用具の使い方を知らせつつ遊び方は制限しすぎないようにしていく  
 ☆粘土板などがぶつかかり合うことがないように必要があればテーブルの台数を増やしていく  
 ☆昨年年度には提供していなかった粘土の型抜きや粘土カッターを置き、進級したから使えるという喜びが感じられるようにする  
 ☆すぐに手を洗うことができるように水道の近くに設定する



<身支度コーナー>  
 ◇新しい環境の中で、身の回りの支度などを自分で進めようとしている  
 ◎自分でできることは自分の力で進めてほしい  
 ☆安心して行うことができよう、マークや写真でやり方や場所を示し自分で身の回りのことを始末しやすいうようにしていく

<絵本コーナー>  
 ◇ゆったりとした空間の中で絵本を読んで物語を楽しんだり保育者と関わり安心したりする  
 ◎物語に触れることを楽しんでほしい  
 ○絵本を読み聞かせたり見守りする中で安心できるようにし、甘えることができるようにしていく  
 ☆ベンチを置いてゆったりと楽しめるようにしていく  
 ☆一人で落ち着いていられる空間として保障する  
 ☆虫、恐竜など興味を捉え、区画も用意しておく

<ままごと、変身遊び>  
 ◇スカートやパンツ、エプロンなどを身に着けてなりきることを楽しむ  
 ◇友達とのやり取りを楽しみながら身近なことを再現して遊ぶことを楽しむ  
 ◎再現や表現をしたり、友達と関わって遊んだりすることを楽しんでほしい  
 ○幼児同士伝え合おうとしていることを読み取り必要な時には仲介していく  
 ☆身に着けるものや、使用する物などは多めに用意しておき十分に使うことができるようにしていく  
 ☆何がどこにあるか分かるように写真やイラストで表示しておく  
 ☆遊具や素材の片付け場所に写真やイラストを表示したり、入れ物を分けたりして片付けが自分でできるようになるために場を整えておく  
 ☆じゅうたんやゴザを敷きゆったりと遊ぶことができるようにする  
 ☆広めのパーションなどを用意しておき、場を分けた方がよかったり整理した方が遊びやすかったりする場合、仕切りを使って、遊びたいことがじっくりとできるようにしていく  
 ☆一人人がやっていることが連鎖して周りの幼児に波及することがあるため、数や種類など豊富に用意しておく

<虫観察>  
 ◇園庭で見つけた虫や散歩先で見つけた虫を虫かごに入れて観察する  
 ◇図鑑と虫を見比べながら何の虫か、どのようにお世話をするかなど保育者や友達と話すことを楽しむ  
 ◎身近な生き物に興味を持ってほしい  
 ○子どもたちの発言に耳を傾け、興味を持って一緒に準備していく  
 ☆虫かごは個数を多く準備し、虫探しを個別に楽しむことができるようにしていく

### 3歳児 10月第2週

3歳児の頃は、園児が興味や関心をもったものを大切にするとともに、保育教諭等側から、季節が感じられるもの、行事に関連したものなどを、入れ込んでいき、活動の幅を広げていくことも大切です。新たな活動に出会うことによって園児の可能性も広がっていきます。

この週は、運動会が終わった翌週の週案です。運動会が終わった翌週は、「行事が終わったから運動会の活動は終わり」と考えがちですが、園児一人一人が運動会当日の年中・年長児などのいろいろな活動から、「年長さんみたいにリレーをやってみたい」「4歳児さんのリズムがかっこいい」など様々な思いや願いをもち、そこから活動が始まることも多いのです。ここで、どれだけ、運動会の再現遊びができたかによって、来年度の運動会への意欲は格段に違ってきます。

また、乗り物遊びなど、園児が様々なイメージをもちながら遊ぶものもあります。「まとまって、皆で一つのイメージを…」などとまだ思わずに、電車と言っている園児、パトカーと言っている園児、様々なイメージをそれぞれに受け止めつつ、駅を作ったり、ガソリンスタンドを作ったりなど、園児一人一人が自らのアイデアを少し形にして楽しく遊ぶことがまずは大事なことです。そして、関わり合う中で互いの思いを絡めながらイメージを共有する時間や機会を重ね、いずれ自分たちで工夫して皆でより楽しく遊ぶようになっていくのです。



3歳児 10月第2週の週案・環境図を参照

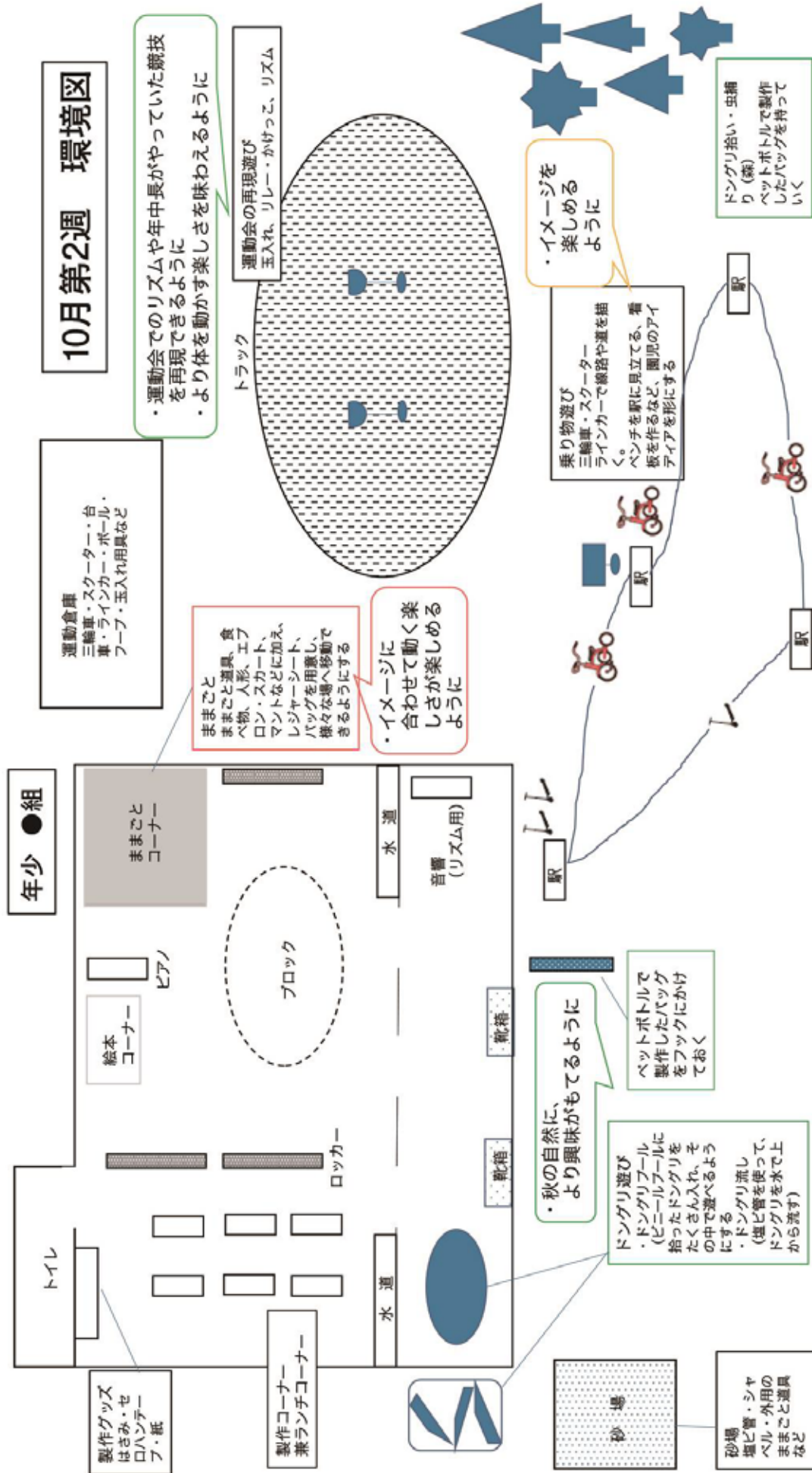
3歳児10月第2週の週案

10月第2週

●●組 担任保育教諭 ●●●●

園児の姿	<p>○前週から13時降園となったが、園で過ごす時間が増え遊べることを楽しみにしている子が多い。砂場では堀ビ管を長くつなげることを楽しんでいる。また、警察ごっこや探検ごっこ、虫捕りなどの中で友達の名前を呼び合うなど関わりが増え、ごっこ遊びの拠点としての場を設定して楽しんでいる姿もある。</p> <p>○好きな遊びの中でも、走ったり大型遊具に挑戦したりして体を動かすことに意欲的な子が多い。運動会当日は、リズムや玉入れ、親子競走に楽しんで参加することができた。他学年の応援を楽しむ子どももあり、年長児や年中児の競技を見ながら一緒に体を動かす姿も見られた。</p>	ならい・内容	<p>○自分の興味をもった遊びに取り組み、楽しむ ・体を動かすことを楽しく感じて遊ぶ ・友達との簡単な関わりを楽しむ ・秋の自然に興味をもって森に出かけたり木の葉拾いをしたりする</p> <p>○自分でできることは自分でしようとする ・自分で使ったものを進んで片付けようとする ・ぶくぶくうがいを自分で行おうとする</p>		
環境の構成・保育教諭等の援助	<p>【環境の構成】</p> <p>○運動会の再現遊び</p> <p>・運動会でのリズムや年中最がやっていた玉入れやかけごこの再現ができるように準備しておく。</p> <p>・ステージ、トラックでは他クラスと一緒に活動する子どもも予想されるため、遊びに関わる園児の様子を見ながら担任間で連携を図るようになる。</p> <p>○三輪車やスクーターをバトカーや電車などに見立てて乗り物遊びをしている。ベンチを並べて場を作ったり、看板などを用意したりしてよりイメージが楽しめられるようにし、多くの園児が参加できる場にしていく。(すのこ、ビールケースなども活用していく)</p> <p>○秋の自然により興味もてるよう、テラスにドングリボールやドングリ流しのコーナーを設置する。森にはコナラやスダジイも落ちてきているため、木の葉拾いにも誘っていく。</p> <p>○ままごとでは料理やパーティーをして遊んでいく。レジャーシートやバッグなど用意していき、</p>	<p>よりイメージに合わせて動くことが楽しめるようにしていく。</p> <p>【保育教諭等の援助】</p> <p>○運動会で楽しかったことを振り返りながら、再現遊びをしたり、集まったときに踊ったりする。自分から体を動かして遊ぼうとする姿を大いに認め、より体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。</p> <p>○ごっこ遊びなどで、数名の友達と関わり合い遊ぶ姿が見られる。保育者も一緒に遊ぶ中で、一人一人がどのように参加しているか、どのようなイメージをもつて遊んでいるのかをよく見て、楽しい雰囲気でのその日の遊びが継続するように声掛けや教材の提案をしていく。</p> <p>○子どもたちの関わりの中で、思いのすれ違いによるトラブルや友達への執着、遊んでくれないなどの落胆が見られる。保育者が間に入って気持ちよく共感したり、代弁したりして一緒に遊べるようにつなげていく。個々の遊び出しの様子もよく見ていく。</p>	<p>○次の遊びに移るときは、自分で使っていたものは片付けるよう声を掛けていく。遊びが繰り返しているときには片付けの時間に声を掛け、使った場や道具を元の位置に片付けられるように援助していく。きちんとできたことを認めて自分でできるとの喜びにつなげるようにする。</p> <p>【行事・その他】</p> <p>○養護教諭によるうがい指導 11日</p> <p>・食後のうがい(ぶくぶくうがい)の仕方を知り、進んで行おうとする。</p> <p>・朝の支度でコップの出し方を確認する。</p> <p>○歌…季節の歌</p> <p>○リズム…運動会で踊った曲、親しみのある曲など</p>		
一日の流れ	8日(月)	9日(火)	10日(水)	11日(木)	12日(金)
	<p>体育の日</p> <p>孤児休日</p>	<p>9:00 登園する</p> <p>○好きな遊びをする</p> <p>10:45 片付け・排泄・手洗い</p> <p>○降園時の活動をする</p> <p>11:30 降園</p> <p>持ち物：コップ</p>	<p>10:40 片付け・排泄・手洗い</p> <p>10:50 うがい指導</p> <p>○昼食時の活動をする</p> <p>○好きな遊びをする</p> <p>12:25 片付け・排泄・手洗い</p> <p>13:00 降園</p>	<p>10:45 片付け・排泄・手洗い</p> <p>○降園時の活動をする</p> <p>11:30 降園</p>	<p>カラ―帽子・上靴持ち帰り</p>





## 4歳児6月第2週

この頃は、あれもしたい、これもしたいと様々なところに興味や関心が広がります。友達関係では、小さな結び付きがたくさんできます。気の合う友達と十分に自分たちで遊ぶことができるそれぞれのスペースを環境として用意することが必要となるでしょう。

参照例では、ままごと遊びができる環境や製作遊びができる環境、ドングリハウスなどの場がそれに当たります。これらの場の構成は3歳児でもありましたが、3歳児との違いは保育教諭等に頼らず、自分たちで遊びを進めていこうとする姿が見られるところです。その姿を認めつつ、保育教諭等が少しアイデアを出したり、園児の言葉を形にしたりすることで、それを基にまた自分たちで遊びを進めていくことができるようになります。

また、6月頃は暑くなり、水が心地よく感じる季節です。開放的な遊びを多く取り入れながら、小さな遊びの集団で遊ぶ楽しさだけでなく、どこかで大きな遊びの集団で遊ぶと楽しいという体験ができるとうよいでしょう。例えば、この例であれば、泡遊びや泥遊び、劇の再現遊びなどがそれに当たります。



4歳児6月第2週の週案・環境図を参照